

応用行動分析学実践基礎講座 100 + (基礎50時間のみ、実践100時間のみ)  
**コース概要とスケジュール (2022年 月開始)**

週	基礎50時間のみ	実践100時間のみ
	<p>講義：「コースと実践課題の説明」「視覚支援と環境の構造化」</p> <p>コースの実践課題（事例研究）：それぞれの立場で現実的な行動変容の目標を決めるコースを通じて介入を行い、データを取り、グラフにし、レポートを提出する。  * 1回目のゼミにて説明</p> <p>行動の原理と応用行動分析学の前提たる基盤の考えについて学ぶ  様々な視覚支援と効果について学ぶーその1</p> <p>課題：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 文献を読みチャットにコメントを出しディスカッションに参加する</li> </ol>	<p>講義：  コースの実践課題についてゼミで説明。ゼミに参加して確認する。</p> <p>課題：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) フィールドワークに必要な書類を準備する（SV合意書、機密保持、機能評価実施への合意などの契約に準ずる）</li> <li>2) 事例研究で取り組むクライアントを決める</li> </ol>
2	<p>講義：「行動の定義と測定I」「自閉症についての基礎知識」</p> <p>データ収集の準備、連続的測定手続き（頻度、持続時間など）、非連続的測定手続き（部分/全インターバル、瞬間タイムサンプリング、観察者間一致IOAなど）、永続的所産による記録、データの記入/計算とグラフ化、行動と環境の客観的かつ測定可能な定義、信頼性と妥当性について学ぶ。  自閉症スペクトラム障害についての基礎知識を学ぶ（特徴、欠陥、3領域での障害、警戒すべき早期のレッドフラッグ、ASDに伴うリスクファクター、診断に伴う用語、併存しうる他の障害とそれらとの鑑別）</p> <p>課題：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 文献のレビュー：BACB発行の「応用行動分析学による自閉症スペクトラム障がいへの支援：保険医療のスポンサーと管理のための実践ガイドライン」を読み、チャットにコメントを出しディスカッションに参加する</li> </ol>	<p>課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) フィールドワーク開始（SV合意書、機密保持、機能評価実施への合意などの契約に準ずること）。</li> <li>2) 介入事例ケーススタディのために、クライアントの不適切行動を一つ標的に選び、客観的に定義しする。所定の用紙に記入し提出。</li> </ol>

	<p>2 シナリオをもとに、DTTを実践し、動画を提出する</p> <p>3 クイズ10問に答える</p>	
3	<p>講義：「強化と弱化」「スキルの教え方 DTT,NET,PRT ABAのプログラムを理解する」</p> <p>スキル獲得計画書/プログラムの内容を理解する、そしてその計画書に基づいてセラピーセッションを準備する、強化の随伴性を用いる（条件性/非条件性強化、強化スケジュール）、DTT,NETの手続きを実行する、エラーコレクションとプロンプト、弁別訓練と刺激性制御の転移について学ぶ。</p> <p>課題</p> <p>1) 「強化と弱化」に関するテーマでチャットにコメントを出しディスカッションに参加する</p> <p>2) クイズ10問に答える</p>	<p>課題：</p> <p>1) フィールドワーク：インダイレクトアセスメント（簡易機能査定インタビュー、MASなど）を行い、サマリー仮説を立てる。簡易機能査定インタビュー用紙を提出。</p>
4	<p>講義：「問題行動にどう対応するか」「行動の機能とアセスメントその1」「消去手続き」</p> <p>行動の機能評価手続きを支援する、不適切行動を減らす行動変容計画書の基本的内容を理解する、行動の機能について説明できる、分化強化手続きを実施する(DRA,DROなど)消去手続きを実行する術を学ぶ。</p> <p>課題：</p> <p>1) 「問題行動の強化」に関するテーマでチャットにコメントを出しディスカッションに参加する。</p>	<p>課題：</p> <p>1) フィールドワーク：標的行動の測定方法を選び、直接的観察を開始する。ベースラインのデータをとりはじめる。</p> <p>2) <u>5分以内のセラピー動画を提出-1(ベースライン)</u></p>
5	<p>講義：「強化子拡張と刺激選好査定」「行動の測定その2」（グラフの見方、FAのグラフの特徴）</p> <p>強化子拡張Expanded Community of Reinforcer ECR,刺激選好査定、データ収集や測定方法とデータの特徴と偏り、グラフの見方とトレンド分析（決定プロトコル）について学ぶ。</p> <p>ゼミにおいて事例介入の中間発表開始（ベースラインデータ）-講義のみの場合、他の受講生の発表を聞く</p> <p>課題：</p> <p>1) クイズ10問に答える</p>	<p>ゼミ：</p> <p>ゼミに参加し、事例介入の中間発表（他の受講生の発表を聞くこと、又は発表する）</p> <p>* 中間発表を行う週については講師より事前に連絡。第5週の前後から始まる</p> <p>課題：</p> <p>1) フィールドワーク：ベースラインデータを取り続ける</p> <p>2) これまでのベースラインデータ、グラフを作成し、提出</p>

<p>6</p>	<p>講義：「問題行動を減らす・無くす手続き PBS/BIP 行動の機能とアセスメントその2 先行 介入/動機づけ操作」「そのほかの弱化手続き」「 米国におけるIDEA, IEP 積極的行動支援PBS、行動の競合図、問題 行動を維持する強化子の消去と代替行動の 強化、オーバーコレクション、レスポンス コスト、タイムアウトなどの弱化手続きの 他、動機づけ操作などの先行介入につ いても学ぶ。また米国におけるIDEAやIEPにつ いて理解する。 ゼミにて事例介入の中間発表（ベースライ ンデータ）-講義のみの場合、他の受講生 の発表を聞く</p> <p>課題： 1) 「行動の機能に基づくセラピー」について 感想をチャットに述べディスカッションに 参加する。 2) クイズ10問に答える</p>	<p>ゼミ： ゼミに参加し、事例介入の中間発表（他の 受講生の発表を聞くこと、又は発表する） * 中間発表を行う週については講師より事 前に連絡。第5週の前後から始まる</p> <p>課題： 1) フィールドワーク：行動変容のゴール とプログラム（不適切行動を減ら すPBS）を講師のアドバイスのもと 作り、介入を実行する。データを取り 、グラフ化する。 2) <u>5分以内のセラピー動画を提出-2</u></p>
<p>7</p>	<p>講義：「課題分析と連鎖化」「シェーピング」「 プロンプト」「トークンエコノミー」 課題分析と連鎖化、シェーピング、プロン プト、プロンプトフェーディング、エラー コレクション、トークンエコノミー、刺激 性制御の転移について学ぶ。 ゼミにて事例介入の中間発表（ベースライ ンデータ）* 予定変更の場合あり</p> <p>課題： 1) 課題分析を実際に行い、専用用紙を使い提 出。また課題分析の動画を見てデータを取り 、データシートを提出。 2) トークンエコノミーを使った経験か、これ から使う計画についてチャットにて述べ、 ディスカッションに参加する。 3) クイズ10問に答える</p>	<p>ゼミ： ゼミに参加し、事例介入の中間発表（他の 受講生の発表を聞くこと、又は発表する） * 中間発表を行う週については講師より事 前に連絡。第5週の前後から始まる * 予定 変更の場合あり</p> <p>課題： 1) フィールドワーク：行動変容のゴール とプログラム（不適切行動を減ら すPBS）を講師のアドバイスのもと 作成し介入を実行する。データを取り 、グラフ化する。</p>
<p>8</p>	<p>講義：「言語行動と早期療育プログラム」「般化 と維持」 言語行動理論、臨床への応用 、VBMAPP/ABLLS-R 早期療育パッケージ（ ドメイン、アセスメント、ゴール設定、プ</p>	<p>課題： 1) フィールドワーク：行動変容のゴール とプログラム（不適切行動を減ら すPBS）を講師のアドバイスのもと 作り介入を実行する。データを取り</p>

	<p>ログラムとステップなど)、般化と維持のシステム化について学ぶ。</p> <p>課題：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ケース事例の中間報告をチャットにて提出、質問やコメントを出す。講義のみの場合は質問やコメントを3つ以上出す。</li> <li>2) クイズ10問に答える</li> </ol>	<p>グラフ化にする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>2) <u>5分以内のセラピー動画を提出-3</u></li> <li>3) ケース事例の中間報告をチャットにて提出、質問やコメントを出す。</li> </ol>
9	<p>講義：「視覚支援とCBT：社会スキルと家族の支援」「ターゲット(目標)の設定とデータの取り方」-8週目から移動</p> <p>認知行動療法、ソーシャルストーリー、ソーシャルシンキング、家族との連絡の工夫、クライアントの尊厳を優先したコミュニケーション、マストライアルとcold probeなどについて学ぶ-8週目から移動</p> <p>課題：</p>	<p>課題：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 行動変容のゴールとプログラム(不適切行動を減らすPBS)を講師のアドバイスのもと作り介入を実行する。データを取りグラフ化する。</li> <li>2) <u>個別アナログスーパービジョン(SV合意書、機密保持、機能評価実施への合意などの契約に準ずること)</u>。事前にセラピーの計画書を講師に知らせる。</li> </ol>
10	<p>講義：PBS/BIPと緊急時のプロトコル」積極的行動支援のフルバージョンについて事例をもとに学ぶ。緊急時(他害/自傷や自然災害などの危険な行動/状況が生じた時の対応のプロトコルについて事例を学ぶ。</p> <p>課題：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 緊急プロトコルについてチャットにて述べ、ディスカッションに参加する。</li> <li>2) クイズ10問に答える</li> </ol>	<p>課題：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) フィールドワーク：行動変容のゴールとプログラム(不適切行動を減らすPBS)を講師のアドバイスのもと作成し介入を実行する。データを取り、グラフ化する。</li> <li>2) <u>5分以内のセラピー動画を提出-4</u></li> </ol>
11	<p>講義：「認定行動技術士RBT/ABA技術士ABATとしての倫理ガイドライン」拘束、弱体化手続き、消去手続きなど特定の介入手続きに関わる倫理的問題、プロフェSSIONALとしての行動、クライアントの尊厳、アドボカシー、HIPAAについて、RBT向け倫理規約」「QABA倫理コード」を学ぶ。</p> <p>課題：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) チャットにてケーススタディについて簡単に報告し、他者へのコメントを出す。講義のみの場合、3つ以上のコメントを出す。</li> </ol>	<p>課題：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) フィールドワーク：行動変容のゴールとプログラム(不適切行動を減らすPBS)を講師のアドバイスのもと作成し介入を実行する。データを取り、グラフ化し、所定の書式を使ってレポートにまとめ、提出。</li> <li>2) チャットにてケーススタディについて簡単に報告し、他者へのコメントを出す。</li> </ol>

12	<p>講義：なし  課題：  1) <u>言語行動セラピーの動画提出</u></p> <p><u>筆記試験：オンライン</u>  <u>実技試験日：講師と1対1</u></p> <p><u>事例発表（シンポジウム）：講義のみの方は他の方の発表を聞く</u></p>	<p><u>事例発表（シンポジウム）</u>  これまでに提出したデータや介入プラン、可能であれば動画を使い発表する。発表はZOOMを使用。</p>
----	--	--

#### 必須文献

RBTハンドブック <https://www.bacb.com/rbt/>

QABA 倫理コード

QABA 資格候補者用ハンドブック

BACB 倫理コード 2022 (cf. 2017年の日本語訳)

「応用行動分析学による自閉症スペクトラム障がいへの支援：保険医療のスポンサーと管理のための実践ガイドライン」竹島浩司ほか訳 BACB発行

家族と共に行う積極的行動支援(Positive Behavioral Support) Joseph M. Lucyshyn, Robert H. Horner, Kathy R. Ben 1996年7月

PEAT Simple Steps Autism Simple Steps Autism ABA online training (google で機械翻訳)

#### 副読本

1994(2003) 「わが子よ、声を聞かせて」キャサリン・モーリス著、河合洋監修、山村宜子訳、NHK出版

2013 「応用行動分析学」ジョン・O・クーパー、ティモシー E・ヘロン、ウィリアム・L・ヒューワード共著、中野良顯訳 明石書店

2015 「行動分析家の倫理-責任ある実践へのガイドライン」ジョン・ペイリー ( 著 )、メアリー・バーチ ( 著 )、日本行動分析学会行動倫理研究会 ( 翻訳 ) 二瓶社

2017 (2015, 1997) 「問題行動解決支援ハンドブック」ロバート・E.オニールほか著。三田地真実ほか訳。金剛出版

---

通常RBTは週に最低10時間はABAを活用した現場でのfieldwork/現場作業をしている。この基礎講座では次のように定義された現場経験を最低週10時間6週間にわたり、コース開始時から終了時まで講義以外の時間に、体験することになります。 : 1. 標的行動を設定し、行動介入を行い、データを収集し、グラフ化する。2. 行動介入のための必要なアセスメントを行う。3. 行動分析的技法とパフォーマンスマネジメントのデザインを自分/他社の行動に対して用いる。4. ならびに行動分析プログラムの計画会議に出席する、プログラムに関わる文献の研究をする、プログラムについて個別に説明するなどの行動分析に直接関係する活動。5. 不明なこと、問題があった場合は速やかに指導者に連絡すること。6. 倫理規範に準じて以上を行うこと。この現場経験を記録するための書式を使って記録し、提出していただきます <sup>®</sup>RBT Registered Behavior Technician 資格取得用の試験についてはこちら <https://home.pearsonvue.com/bacb> RBTハンドブック<https://www.bacb.com/rbt/>